

<添付資料> 第9次豊田市総合計画に対する保見地域会議からの意見・提案

(1) ミライ構想のめざす姿

	意見・提案	背景・理由
1	「つながり」を持っていない人への機会の周知と「つながり」の拡大がさらに必要と思う。	個人（人種、年齢、性別）、家庭、地域、環境等、様々な多様性の中で人のつながりが重要なため。
2	形がある「ものづくり」から脱却し、共通の楽しみを共有できる人たちが集まる「ことづくり（仕組み・仕掛け）」を実施すべきである。	人口減少、高齢化、個人情報への厳格化が深刻化しているため。
3	普遍的な方向性としては、「安全なまちづくり」でいいと思う。	大規模災害に備えたまちづくりが根幹にあればまちは持続できるため。
4	広い市域の特性を生かした、山村留学、工場見学、レクリエーション施設の設置など、交流の機会の場をつくってほしい。	豊田市には様々な産業に携わる人や多くの外国出身の方が住んでいるため。

(2) (仮) ミライ構想のまちづくりの基本的な考え方

	意見・提案	背景・理由
5	発想の転換は現在の問題点を少しでも解消するためには必要なことである。この中で「多様な主体が楽しむまちづくり」のための行政のあり方が重要になる。	多様な主体をどのように育成するのか。市民や団体に依存したものであれば、生活に苦しむ市民にとってゆとりがなく、楽しむ活動は委縮してしまう。そのための行政としての手だてが重要であると考えため。
6	「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」には「何が必要なのか考える」ことが重要ではないか。	中山間地と都市部を比べると、インフラ整備の違い、病院、スーパー、銀行等の有無というような地域間格差が大きく、「楽しむまちづくり」には差があるため。
7	全国的に見たときに豊田市の特徴・特色をどう位置づけるかを基本的な考え方とすべきである。当面はトヨタ自動車（株）を主体とした「自動車のまち」であるため、業界の動きには注目すべきと考える。	100年に一度と言われる転換期で産業が大きく変わることも想定して将来のまちを見据えてほしいと思うため。

(3) 都市構造

	意見・提案	背景・理由
8	各拠点に最小限の基本機能を付与しつつ、独自性・特色を生かした拠点づくりとネットワークの充実により、各拠点の特色を共有できると良い。	生活に必要な機能は基本機能として付与する必要があるが、利便性はネットワークで補完できる。各拠点の特色を生かしたまちづくりで各々が発展できると考えるため。
9	いくつかの拠点を公共交通や道路で結ばれた「つながるまちづくり」の構想はいいが、実現は超長期的な計画になるのではないかと感じる。それ以前に各拠点の整備が先決な気がする。	広大な面積を誇る豊田市は市街地を離れると、ほぼ山間部という地形であり、構想やイメージを実現するのは並大抵ではないと感じるため。
10	「拠点等が公共交通や道路で結ばれた「つながるまちづくり」を目指す」とあるが、20年後、30年後の世の中で、つながるための手段や方法は公共交通だけだろうか。もっと発想の転換が必要ではないか。	将来的には、もっと違う社会インフラができていないだろうかと想定する。いま現在の拠点に公共交通と道路を配置しただけのように見えるため。
11	都市構造の実現に向けた方針の中の「移動」に交通ネットワークの強化とあるが、強化されるのは豊田市駅、土橋駅周辺だけになり、ほかの地域では難しいのではないかと感じる。	2027年のリニア開通に向けて名鉄でも特急電車を停車させる工事が進行しているが、停車駅となる土橋駅や都心部の豊田市駅の2つの駅だけがバスやタクシーの客足が見込めるために強化できそうだが、ほかの地区では無理なのではと考えるため。
12	地域でも生活できるような最低限の商業施設等が必要ではないか。	保見地区に商業施設が少ないため。